

第6次知多市総合計画審議会〔第4回〕

【日 時】平成31年2月13日（水） 午後3時～5時

【場 所】知多市役所3階協議会室

【出席者】

会 長 吉村輝彦 日本福祉大学 国際福祉開発学部 学部長・教授
副会長 入江容子 愛知大学 法学部 教授
市野 恵 特定非営利活動法人 地域福祉サポートちた 代表理事
片山麻有 愛知県男女共同参画人材育成セミナー修了者
河村康英 社会福祉法人 知多市社会福祉協議会 副統括監兼総括主任
久野美奈子 特定非営利活動法人 起業支援ネット 代表理事
近藤通哉 株式会社 日本政策金融公庫 熱田支店長
榊原秀敏 あいち知多農業協同組合 営農部 知多営農センター長
高山博好 NPO法人びすた〜り 代表 環境カウンセラー
竹内徳得 知多市観光協会 副会長
竹内 誠 知多市コミュニティ連絡協議会 会長
富田敬子 市民ワークショップ「未来にツナグ会議」参加者
長倉剛士 日本労働組合総連合会 愛知県連合会 知多地域協議会 代表
松本幸正 名城大学 理工学部 教授
水内智英 名古屋芸術大学 芸術学部 准教授 国際交流センター長
峯神亜由美 知多メディアスネットワーク株式会社
営業部 集合・法人グループ グループリーダー
吉川佳代 知多市社会教育委員
(事務局)

【欠席者】生田祐江 市民ワークショップ「未来にツナグ会議」参加者

竹内栄道 知多市商工会 監事

野尻紀恵 日本福祉大学 社会福祉学部 准教授

【傍聴者】5名

【議事次第】

- 1 会長あいさつ
- 2 議題
基本構想について
- 3 その他

【会議の概要】

1 会長あいさつ

[事務局]

事務局の企画情報課長、細川です。

会議開催に先立ちまして、お願いがございます。毎回お願いしていることではございますが、会議の内容をホームページなどで市民の皆様に積極的にお届けしたいと考えております。記録のための写真撮影を行いますので、よろしくお願ひします。

なお、本日の会議ですが、知多市商工会監事の竹内栄道委員、日本福祉大学社会福祉学部准教授の野尻紀惠委員のお2人より欠席のご連絡を頂いております。本日、17名の出席で定足数に達しております。

それでは、会長、よろしくお願ひいたします。

[吉村会長]

皆さん、こんにちは。先回の11月以来と久しぶりの開催です。この間、事務局を中心に様々な作業がなされてきたかと思いますが、今回はそれを踏まえてまとめていく作業になるかと思いますが、2019年は様々なことが起こる、時代を見据えていくうえで大事な年です。私自身も猪年であり、猪突猛進で思いを突き進めるべきなのか、適度に慎重になすべきなのか悩ましいところですが、それでも新しいことにチャレンジしようと第1回から議論してきました。その初心を大事にしながら、皆さんと悩みながら考えていきたいと思ひます。

総合計画の作り方、内容などで、これまでと違った観点で考えていこうする期待がある中、最後はこうなってしまった、とならないよう心に留めて、これからも議論していきたいと思ひます。

他方で、これからまとめていく作業としては、悩ましい所も多く、様々な調整も必要となります。皆様の知恵を大事にしながら一緒に考えていきたいと思ひます。本日もよろしくお願ひします。

2 議題

基本構想について

[事務局]

【配布資料の確認】

【「第6次知多市総合計画（序論・基本構想）の構成（案）」について説明】【資料1】

【「まちづくりの基本的な考え方」について説明】【資料2】

【「めざす「ひとの未来」と「まちの未来」の姿」について説明】【資料3】

【「まちづくりに対する子どもの意見」について説明】【参考資料】

[吉村会長]

冒頭でも説明がありましたが、これから総合計画の中身を具体的に詰めていくに当たり、個別の施策、事業に関する議論も当然出てきますが、今回は未来を見つめ直す中で、基本構想部分についての考え方、未来の部分の意見を頂きたいと思ひています。この部分については、おおよその方向性、ある程度の中身を今回決めたいので、今日の段階で是非いろいろな意見を頂きたいと考えています。次回以降に、その未

来を実現するために、現状・現実とどのようにつなぐか、どのような施策パッケージが必要かということについて、議論することになると思います。

ここからは、第2回、第3回と同様に2つのテーブルに分かれて議論を進めてまいります。適宜資料2、資料3を参照しながら、ご意見を頂ければと思います。議論の中で出てきているいろいろな言葉で、資料にはない気付きも含めて、この場でいろいろな意見を頂きたいです。

まず第1弾の議論をして、途中で他グループとの内容を共有した後、再び議論したいと思いますので、よろしくをお願いします。

【吉村会長のグループ発言骨子】

[吉村会長]

ご意見や気になる点を言っていただきたい。

[高山委員]

前回の審議会では緑の話が多かったが、それがどれ位取り上げられているか。知多市では耕作放棄地が多く、都市部から来て、心が落ち着くような美しい自然に値するとは思えない。雑木林も竹林も荒れており、魅力ある緑づくりをしていきたい。

[吉村会長]

緑については、資料1の「めざす姿」にも書かれているが、さらに積極的な書きぶりが必要ということか。

[高山委員]

緑が豊かだから人々が自然に接しているかということ、必ずしもそうではない。自然が身近にあってもあまり触れ合っていないようだ。

一方、自然と触れ合うほど、子どもたちは積極的になり自己肯定感が強くなる傾向がある。成長するきっかけは、自然体験によって作られる。知多市には、その材料はあるので、もっと有効に使ってほしい。

[吉村会長]

「めざす姿」で言うと、「ひとの未来」の4の自然と共生の部分と「まちの未来」の5の緑の部分をうまくつなげることが必要で、残っている、あるものをどう上手く使うか、活かすかという部分が十分に説明されていないのではないか。

[高山委員]

リニア時代に名古屋まで20分という距離において、魅力ある自然はもっとアピールできる。

[竹内（誠）委員]

人が手を加えて整備しないと豊かな緑ではない。高齢者のボランティアを募って、緑を支えていく

のも1つのアイデアである。

[吉村会長]

「まちの未来」の5の説明で、環境の守り手は誰かという部分がかかれていない。地域活動や市民活動において、緑をどう位置づけるか。意図的に大事にしていくのであれば、明確に書くことが必要。

[長倉委員]

緑は起業とも実はリンクしている。美浜町の「美浜の里構想」は、日本一の広さの農園などを造ることを計画するものであるが、起業のきっかけともなる。竹林整備のボランティアのように、何かしらのきっかけがあると良い。

[吉村会長]

「まちづくりの基本的な考え方」の中のチャレンジするという項目の中に、起業も入ってくると思う。今後の議論の中で、人と緑、仕事、機会それぞれがバラバラにならないパッケージをいかに作れるかが重要である。

[榊原委員]

管理された、手の入った緑が健康な緑である。管理できる緑という面では、健康な緑を作っていく人も作る必要がある。運動と絡めた健康も大事だが、できるだけ地域のもを食べて健康に暮らすという部分も入れてほしい。

[吉村会長]

「ひとの未来」6のスポーツ・健康づくりのところで、地域のもを食べる、という観点を入れると良いということか。今は、説明部分でも書かれていない。

細かい施策部分ではもっと議論のあるところだと思うが、今回は未来に関わる部分で議論したい。別の視点からどうか。

[片山委員]

自分たちの命がこの市で守られているという土台があった上で、緑があったら良い、などそこから派生しているものが並ぶのだと思う。未来のことは、今どれだけ考えても分からないのならば、命がなくなっていくということをもっと基本的に考えても良いのではないか。

[吉村会長]

「まちづくりの基本的な考え方」の中で、「命」が前提として一番重要であることを確認して伝えることは大事かもしれない。

[長倉委員]

今は、隣近所の顔が見えない。近所づきあいで、隣の家の高齢者や家族構成、高齢者が寝ている部屋

まで分かっているならば、震災などがあっても、その部屋を目がけて助けに行くことができる。元気のない子どもがいれば、声をかけることも出来る。人と人のつながりが非常に大事。

[吉村会長]

まちづくりの原点をもう少し書き込んだ方が良いということだろうか。

[松本委員]

今回の総合計画はバックキャストで作るということだが、これから訪れる課題への対策が十分でないのではないかと。人口減少、少子高齢化、厳しい財政、インフラの更新の問題が目に見えている中で、これで本当に乗り切れるのか不安である。

まちづくりにおいては、モノを前面にする時代ではない。市の特徴を考えても、コトが中心の考え方で良いと思うが、直面すべき問題から目を背けていないか。拡大した都市・インフラの維持管理、空き家問題、超高齢者ばかりのコミュニティなどの問題に対応できるだろうか。都市間競争が始まる中で、他から投資を呼び込むような、お金が回っていくような仕組みを公共と共に作っていく視点も必要ではないか。例えば、周辺自治体の緑と知多市の緑は何が違うのかを考え、そこを上手く総合計画に取り込み、行政と共に育てていくような仕組みを上手く描ければ良い。

市民活動に関してはよく書かれており、分かり易くて良いが、行政の決意が見えない。

また、「まちづくりの基本的な考え方」の1と4は似ている。誰もが個性を輝かせ自分らしく生きる、その中の一つとしてチャレンジがあると思う。2と3も似ていて、持てる力を出し合い、共に創るということは、ひとやまちとのつながりを大切にすることだと思う。項目4つが独立しておらず、もったいない。

[吉村会長]

例えば、「将来のまちづくりに影響を与える要素」のところで、人口が1割減少、などとさらっと書かれると、行政の決意が感じられないということだろうか。もう少し、意識や決意をしっかりと確認できる形でまとめていきたい。

【入江副会長のグループ発言骨子】

[入江副会長]

「まちづくりの基本的な考え方」と「めざす姿」とのつながりなど、いろいろな観点からご意見いただきたい。

資料2についてのご意見はあるか。

[久野委員]

主語は市民になるのか。主語を市民としたときに、多様性、人それぞれという感覚がなくなるというのが率直な感想。

[近藤委員]

「まちづくり」という言葉は一般的にインフラ整備に使われるので、ここでどのような意味で使われているかがよく分からない。「知多市の理念」や「市民像」ならば理解できるのだが。

[久野委員]

ここで書かれているものは、めざす姿に向かうときの姿勢のような印象を受ける。

[入江副会長]

まちづくりをどのように捉えるか、ということではないか。「まちづくりの基本的な考え方」を見ると、従来型のまちづくりとは異なる印象を受ける。前提として、知多市の考えるこれからのまちづくりはハードだけでなく、ソフトや人づくりが含まれる、という説明があると分かりやすいと思う。他の自治体では、市民憲章のように取りまとめている事例がある。

[吉川委員]

「知多市民の誓い」があるが、その実現に向けて、日々努力されてきたと思う。

[入江副会長]

「知多市民の誓い」との関連性があつた方が良いということではないか。

[水内委員]

SDGsの考えが日本の中で認知され始めているが、SDGsは項目同士が相互に関連しており、一緒に進めていかなければ全体の環境改善が図れない、という基本的理解に基づいている。

計画のまとめの際は縦割りにならざるを得ないが、どこかでSDGsの根幹である相互の関連性、つながり、横串をさすものがあるとこれまでの計画と異なってくると思う。全体の項目に関連し、全体をまとめる項目があつても良いのではないか。

[入江副会長]

資料3の右欄に「関連する主な施策等」がある。これをみても従来型の施策、部をまたいだものが整

理されている。目的を達成するために基本計画を体系づけ、それに応じた実施計画を策定するという考えの表れではないか。

従来型の計画では、各部署が所管する事務で関連するものを挙げていく。これは政策供給者側の議論である。SDGsなどを考えると、受け手である市民がどのような政策を必要としているか、そこから見たときに、様々な部署をまたいだ施策が必要となる。そのような形で基本計画を作るのか、ということを経済局に確認しつつ進めたい。

[富田委員]

「めざす姿」については、関連する事業が具体的になっていると、より分かりやすいのではないか。

「人」という言葉がたくさん出てくるが、何を示すのか。関連する事業などが挙げられていると具体的なイメージをしやすい。

[入江副会長]

書き方がふんわりした感じがするが、これは総合計画で相当新しい取組である。例えば、市民と言うときに、知多市に在住する方だけを指すのか、知多市へ通勤し働く方も含めて考えるのか。あえてふわっと作るという意図であればこのような表現になると思うが、伝わりやすい面と伝わりにくい面の両面がある。

[竹内（徳）委員]

具体的にはこれからの議論だと思うが、内容がもやっとした感じがする。将来的な市民のあり方から、このような形で進めていくという方向を示すのは良いが、施策を具体化させる際にはいろいろな問題が生じてくるのではないか。

これで良いのか判断できず、内容はもやっとしているが、大切にしたいところは示されていると思う。

[吉川委員]

めざす姿は、「ひとの未来」と「まちの未来」に分けて書かれている。「ひとの未来」を見ると、市民が努力して達成するもので、「まちの未来」を見ると、市民だけでなく、行政も頑張らないと達成できないもののように思える。しかし、知多市を一つのまちと考えると、市民、行政ともに皆で取り組んでいかないといけない。

元気な市民を求めているという「チャレンジ」という言葉などは、皆が求めているものであるので、良い言葉だと思う。

[久野委員]

「ひとの未来」で「地域活動や市民活動などに関わる活発な市民が増え、いきいきと活動している」とあるが、地域活動や市民活動のあり方そのものも見直されていく必要がある。人口減少の中で、人口として活発な市民は増えないのではないか。関わり方の多様化や担い方の多様化などとセットになって初めて、めざす姿が達成する可能性がみえてくる。今の書き方では、これまでの地域活動や市民活動

のあり方を是として、そこに人が合わせるように頑張ってもらいたいと言っているように読み取られるのではないか。

[市野委員]

総合計画はあらゆる施策の基になるので、具体的な内容にならないと聞いていた。しかし、人口減少の中での指針にはなる。まちづくりの捉え方をしっかり共有し、それが明記されると良い。

キャッチフレーズのところには、皆が納得する明確なものが入ると良いと思う。

[入江副会長]

「まちづくりの基本的な考え方」の1の「チャレンジ」については、一度失敗しても再チャレンジできる、一度休憩しても継続的にやっていけるということが包摂的に読み取れると良いのではないか。市民の将来像として「活発な」というのは、キーワードとして良いが、年がら年中ずっと猛ダッシュはできないと思う。

[久野委員]

ふわっとしていろいろな捉え方ができるのは良いことだが、その中に生身感、自分のことが書いてあるという感覚がにじむと良いと思う。

[入江副会長]

高いところを目指している書きぶりである。

[久野委員]

目標としては良いとは思いますが。

[竹内（徳）委員]

生きがいを持ちながらチャレンジしていく市民の集まりというのが、この知多市の市民像の狙いではないか。持てる力は人それぞれだが、それぞれの立場、場面で発揮できる場があるのが知多市ではないか。

[入江副会長]

「まちづくりの基本的な考え方」の項目として、1と2は逆の方が良いかもしれない。それぞれの持てる力の中でチャレンジもできる、という感じではないか。

「ひとの未来」と「まちの未来」についてのご意見も頂きたい。

[竹内（徳）委員]

ひとの未来があり、それに沿ってまちの未来がある、ということだと思う。

[入江副会長]

ひとの未来を実現するためにまちの未来を実現し、互いに還元し合う、ということではないか。

「ひとの未来」の書きぶりはどうか。「まちの未来」は近藤委員の発言にあったように従来型のインフラを含めた書きぶりとなっている。そこが「ひとの未来」と上手くマッチングできているか。

[水内委員]

そこが気になる。例えば、「まちの未来」の「自然災害に強い」というと、インフラもあるし、防災教育などもある。ソフト、ハード両面で、ひとにも関わってくる。はっきりとまち、ひとと区別できるのか疑問である。

また、「知多市の特性」の中で「暮らし」という項目があるが、「めざす姿」には落とし込まないのか。

[入江副会長]

例えば地方創生の総合戦略でも関連する施策はたくさんある。一つの目的を達成するには、様々なことが関連しないと実現しない。関連性も、多少の重複があったとしても書き込んだ方がより具体的になるのではないか。

[水内委員]

同感である。きれいにまとめたばかりに、複雑な部分を排除しがちである。実際の生活はいろいろなことが絡み合っているので、そこを意識すると新しい計画ができるのではないか。

[富田委員]

「健康、スポーツ」という言葉はあるが、「文化」という言葉はない。伝統も文化になり、市民活動でも文化に関わっている人は多いので、「文化」という言葉も入れてほしい。

[久野委員]

「まちの未来」の方で、歴史や伝統は整理されている。

[入江副会長]

人があってこそその文化の継承ではないかとも思う。

【全体共有】

[入江副会長]

大変活発にご意見を頂戴しました。

まずもって、資料2の「まちづくりの基本的な考え方」の主語がよく分からないという意見がありました。全て市民が主語とすると、少し制約的に感じるし、これが市民の姿勢を表しているのかが読み取れない、との意見もありました。それとも関連することなのですが、「まちづくり」とは従来型で言うとインフラ整備を指していると思うのですが、ここで出てくるまちづくりは理念的なものを指しており、そことの齟齬をどうするか。もし、「まちづくりの基本的な考え方」をこのままの形とするのであれば、前提として、ハードだけでなく人づくりといったソフトがまちづくりの根幹である、という記述もあった方が良いのではないかと、とのことでした。

また、「市民の誓い」との関連性が、「まちづくりの基本的な考え方」にもあった方が良いのではないかと、のご意見もありました。

SDGsの考え方が世界的に認知されてきていますが、項目同士がお互いに関連しないと実現しない中で、基本構想に出てくる施策としても、全体として関連性があり、目的を達成するための枠組みになっている方が良いのではないかと、というご意見もありました。そのときに、これは私から事務局へお尋ねしたいことですが、この「ひとの未来」と「まちの未来」に基づいて基本計画を作っていく中で、従来型の所管別の計画とは異なった作り方をされるのでしょうか。

意見に戻りまして、「人」という言葉がたくさん出てくるのですが、つかみづらくもやっとしていて、これを施策として具体化する際には難しさがあるのではないかと、というご意見もありました。

資料3の「ひとの未来」は市民が頑張り、「まちの未来」は行政が頑張るというふうに、はっきりと分けるのが良いのかどうか、また、この2つの関連でいうと、「ひとの未来」がまずあっての「まちの未来」ではないかと、というご意見もありました。「ひとの未来」を実現するために、「まちの未来」のこういった項目がどのように関連してくるか、という観点からのご意見もありました。

ふわっとした書きぶりは良いのですが、理想の市民像を掲げるだけでなく、生活感覚に基づくような記述も含めた生身感があると良いのではないかと、また、チャレンジにおいても、再チャレンジできることも読み取れると少し安心感が出てくるのではないかと、との意見もありました。そういったことからすると、「まちづくりの基本的な考え方」の1と2は逆の方が良いのではないかと、とのことでした。

また、SDGsの、項目同士が関連して実現するという観点で言うと、多少重複しても良いので、基本構想の目的を実現するためにどのような施策が必要かということを書き込んでいった方が良いのではないかと、というご意見もありました。いろいろな観点の施策がある中で、トータルとして目的を実現するためには、様々な関わりが絶対的に必要になると思います。重複が多少あっても分かりやすく市民に届くような形で書き込んでいってはどうか、というご意見でした。

また、「ひとの未来」の中に、「文化」という言葉が入っていないというご指摘もありました。

[吉村会長]

ありがとうございました。今いくつか事務局への質問や確認もあったかと思うので、その部分に対する回答をお願いします。

[事務局]

ご意見の通り、今回、めざす姿ということで、かなり横断的な書きをしており、この先に個別の施策がぶら下がってくる形とすることを考えています。基本計画の中で「分野別計画」として整理し、横断的な施策と施策の関連性は、「重点戦略」と位置づけ、横断的に目的を持った、トータルの施策として記述しようとしています。知多市として、初めての計画の作り方なので、どのような形で書き込めるのか、審議会のご意見を伺いながら手探りの状況です。そういった意味でも挑戦していきたいと思っています。

[吉村会長]

ありがとうございます。心配である反面、期待も持てる、というところですか。委員も含めて、お互いに悩みながら、どういう形にするかを一緒に考えていきたいと思っています。

[吉村会長]

大部分は重なる内容であったので、こちらのグループで気になる内容を少しお話しさせていただきたいと思います。松本委員より、バックキャストで計画を作ることは良いものの、現実には起こっていることについて、もう少し真摯に見つめ直す覚悟を示した方が良いのではないかと、という意見がありました。

例えば、将来のまちづくりに影響を与える要素として、人口が1割減少、高齢単身者、世帯数の増加と書かれていますが、現状の、未来を考えていく上で多くある前提となることをどのように捉えるか。それらをどこかで書きながらも、実現したい未来に向けてどうすべきかを考えることも大事だということでした。他方で、ここに描かれている未来を実現するためにいろいろと広げていき、持続的ではないことを行わないように、しっかりと議論をして考えていくことも必要だろうと思います。

今後、知多市が特徴を見せながら都市づくり、地域づくりを進めていく上で、知多半島内に限らず、いろいろな街と良い意味での競争になっていく中で、いろいろな人がこの街に投資したくなる意味合いは、「めざす姿」などで書き込んでいくべきかもしれません。関連する話として、起業、地域への投資も含め、夢に向かってのチャレンジは、レベル、分野が多岐にわたり、一言で伝わらないのだろうと思いました。

片山委員からは、安心して暮らしている前提として、知多市は一人ひとりの命を大事にしているという、より強いメッセージを冒頭に示したうえで、議論してはどうかという意見もありました。

緑にまつわる話が多くありました。緑が残っているというものの、知多市には耕作放棄地が多いという指摘や、緑が保たれているというのは誰が管理しているのか、関わっているのか、活かしているのか、また、環境学習など学びの機会の話もありました。緑が残っているだけではなく、緑を通した起業、雇用という提案もありました。緑を中心にいろいろなことが重なっていくと、横断的な取組の一例になるのかもしれないと思いました。

この後、さらに議論を深めようかと思いますが、松本委員から1や4は重なるという指摘もありましたけれども、あえて重なるものを別建てにする方法もあるのかとも思いました。

SDGsの観点、誰一人取り残さないという理念は、命も含めて非常に大事な話です。近年、いろいろな地域、自治体で、差別化という観点からもSDGsを正面から扱うところも増えており、これから考えなくてはならないと思います。ダイバーシティやインクルージョンのようなカタカナ語を使うかということも含めて、そのあたりはまだまだ考えていかなければならない視点があると思います。

[吉村会長]

それでは、引き続き議論をしていきたいと思います。

【吉村会長のグループ発言骨子】

[河村委員]

「ひとの未来」のところで出ている6つの視点は、どうやって地域共生社会をつくるのかという視点ではないかと思う。1の地域の一員としてつながるためにも、2の地域への愛着と誇りを育むためにも、場が必要。そのような仕掛けが、学校教育だけでなく生涯学習など、いろいろなコミュニティの中にあると良い。

コミュニティの担い手がいないのが課題であるならば、新たな場作りは戦略的に行わなければならない、そうしないと教育の場も担保できず、継続性も確保できない。高齢者が増えても、健康寿命を伸ばして今ある活動を担える、という未来像を分かり易く描いた方が良いのではないかと。

5の「子どもから高齢者までの活動」の子どもの部分では、障がい児も含めた全ての子どもへの学習権の保証を明記してほしい。貧困世帯も含めたすべての子が、学校以外でいろいろな体験や学びが出来る機会を作っていくには、多様なコミュニティ作りが必要。その中で、成人し、知多市に愛着を持って知多に還元することが、文化の継承、伝統につながり、定住、健康寿命につながる。

リカレント教育を大学と提携し、試行するのも面白いと思う。

[峯神委員]

子どもは宝。子どもがたくさんいる街であれば、緑を守る人もいるし、いろいろなことに取り組む場、チャレンジする場も増える。教育や子どもに目を向けた市をめざすのが良いと思う。

教師の働き方改革によって、子どもたちのチャンス、やりたいことに取り組む機会が減っているのが寂しい。学童においても、利用児童が増えることで、先生が児童と過ごす時間が短くなっているように感じる。出欠連絡等も管理システムなどで無駄を省けば、先生が児童と関わる時間を創出できるのではないかと。資料3「まちの未来」の6「自動化が進む」は、新庁舎だけではなくいろいろなところに展開してほしい。

[吉村会長]

縦割りの働き方改革ではなく、いろいろな仕掛け、仕組み、技術を使いながら、上手く効率化し、空いた時間を本当に使うべきところに使うことができれば、ということだと思う。

学童のような場所、緑のある場所など、いろいろな居場所が街中に散らばり、いろいろな人が柔らかく関わる姿は、「まちの未来」にあっても良いのではないかと。1は駅周辺や公共施設の話であるが、自然の中など、いろいろな場所がいろいろな人のための場所になるのではないかと感じた。

[松本委員]

少子化に対して、知多市が子育てに本当に力を入れ、戦略的に実行するとなれば、特徴的な総合計画となる。他自治体でも子育て世代を囲い込む施策を打っているが、自然も豊かで名古屋にも近く、コミュニティもあるという、知多市なりの資源を使って組み込み、教育施設が足りなければ、大学と連携し

て補うこともできる。「子どもを育てるならば知多市」というものを出し、どのように計画に具体的に落とし込むことができるか。もし実現できれば、どんどん子どもが生まれて賑わうという絵が描け、未来に訪れる問題の解決策にもつながる。その子どもたちに緑の教育も行えば、緑も活かすことになる。

[河村委員]

2025年問題は、2025年に生まれた子どもが40歳になるまでのまちづくりのスタートである。将来像を描くためには、将来を担う人材育成が重要であり、その部分は強く書き、現状の部分は、制度的に限界にあることを踏まえながら、身の丈に合ったものを維持していくという書き方にして、強弱を付ける必要があると思う。お金や人の制約があり、どれもこれもは難しい。特徴あるものと自然を併せた知多市らしさを出せると良いのではないか。

[吉村会長]

今書かれている「ひとの未来」「まちの未来」は全般的な感じがするので、この部分を、というところを見せていった方が良いのではないか。重点戦略の中でさらに具体化し、いろいろな施策を組み合わせる見せ方は大いにある。また、重点的に取り組むこととしたときに、それを未来の中でどう描いておくと良いのかについても考えておくべきだと思う。

[竹内（誠）委員]

学校の先生に余裕がなく、残業も非常に多い。

また、定年が65歳となれば多くの人が70歳まで働くようになり、退職した人にコミュニティの運営を任せている現状では、元気に活動をしていただける方がさらに少なくなるという心配がある。

[吉村会長]

行政が果たすべき役割が技術の進歩によって変わることや、地域の今まで当たり前のように成り立っていた前提が変わってしまったときに、どうしたら良いかを問い直さなくてはならない。行政だけではなく、地域の組織のあり方も考え直す必要がある。

[片山委員]

東京のある中学校の事例で、改革によって先生の働き方を変えることができている。そのためには、先生たちだけでなく、先生・児童・保護者・地域を一緒に変える必要があるようだ。

[松本委員]

教育で街をアピールしていこうと思うのであれば、教育改革は非常に重要である。一方、現状知多市で一個人が改革を進めようとしても上手くいかないのではないか。市として教育改革を宣言する総合計画を作れば実現することができ、そうなれば子育て世帯が転入してくるかもしれない。

[片山委員]

知多市が変われないのではなく、変わらないと自分たちで決めているのではないか。先程の中学校

の例では、最初の1、2年はトップダウンだったが、先生、子ども、保護者の順で巻き込んでいった。

[高山委員]

モデルケースとして認められたら、人口も増える。先行事例を知多市で作りたい。

[榊原委員]

幼稚園や保育園で取り組めると良い。

[松本委員]

総合計画で教育特区を謳い、小・中学校の教育自由化の施策を打っていくのはどうか。

[吉村会長]

そういう未来を描くことができるのが大事。具体的なアイデアとして出てきているものを、実現するには何をすれば良いのかが重要である。

[松本委員]

今求められているまちの姿の一つとして、「歩いて暮らせるまち」があり、健康にもつながる。知多市でそういう感覚が全くない。同時に、子どもたちが自立的に移動できる環境が重要である。現状は、どこへでも親が送迎し、行きたいところに自分で行くことができない。安全に歩ける空間と公共交通機関に乗れることが、お年寄りの健康にもつながるし、早期の免許証返納にもつながり、事故が減る。そのような記述が全くないのは、知多市には不要だからか。どこもかしこもではなく、駅周辺や中心市街地だけでもそのような空間を作ってはどうか。キーワードとして、「歩いて暮らせるまち」「公共交通が充実したまち」というものは、知多市に必要ないか。

【入江副会長のグループ発言骨子】

[入江副会長]

今回は資料3を中心にお話しいただきたい。

[市野委員]

「まちの未来」の1で「朝倉駅周辺が暮らしを豊かに」とされている。前回の審議会でも指摘があったと思うが、知多市は3町が合併してできた街であり分散されているので、朝倉駅周辺に特記されていることが気になる。

[竹内（徳）委員]

朝倉駅周辺整備がありきになっている。そうすると、残されたところはどうか気になる。拠点になっているところがあれば良いが、市役所から離れている地区などは取り残されてしまうのではないか、という感じがする。

[久野委員]

人口が減っていく中で、コンパクトシティ的にどこかへ寄せていく方が良いのではないかと、全国的には言われている。これまで、そういう議論がされていない中での書きぶりとはなっている。知多市としてどのような道を選ぶのかは、次の総合計画の議論になるのではないかと。

[吉川委員]

次の総合計画ではどのぐらい進んでいるか。

[久野委員]

朝倉駅周辺整備自体は進んでいるので、将来的な起爆剤、賑わいの起爆剤にはなり得る。

ひとの暮らしのあり方がどうなっていくか、人口が減少している地域、人口が増えている地域があり、今後どのようになっていくかはこの中では議論されていない。「持続可能な整備とマネジメント」というのは少し難しいかもしれない。

[竹内（徳）委員]

朝倉駅周辺を核として賑わいを形成していくとして、それ以外をどうするかという道を作る必要があるが、それが見当たらない。

[入江副会長]

市全体でみると、朝倉駅が中心となり、そこを整備することで賑わいが生じるという議論にはなり得るが、市全体から見たときにどうかという議論の前段があり、その他の地域がどうかということが読み取れば良い、ということか。

[竹内（徳）委員]

朝倉駅と他の地域のつながりについて、具体的には、コミュニティバスが運行されているが、現状の経路だけでは取り残された地域がある。高齢化の中で、運転免許証を返納した市民の交通手段をどのように確保するか。恐らく、コミュニティバスではなく、別の手段、例えばシェアリングなどが必要となるのではないかと。

[入江副会長]

恐らく1は市の賑わいの重点という観点から書かれている。これがトップに来ていて「持続可能な整備とマネジメント」と言われると疑問に感じる。

[近藤委員]

「まちの未来」の4で「企業が進出し、自然との調和」と取り上げられている。

「進出」と書いてあり、説明では「企業誘致」とある。ここのイメージは他地域から誘致するということだが、これを読んだ知多市の中小企業の方はどう思うか。自分たちは応援してくれないのか、となるのではないかと。地域経済の活性化に資する企業を増やすのが思想なので、誘致、進出にフォーカスした書きぶりはいかかなものか。知多市で既に頑張っている中小企業も、企業用地を整備すれば来てくれ、規模を拡大していただければ良いので、進出、誘致にフォーカスした書き方ではない方が良いのではないかと。

[久野委員]

事業所数が増える、という書き方が良いということか。

[近藤委員]

雇用の受け皿となるような企業が増えることをコンセプトとした書き方が良いと思う。

[吉川委員]

「ひとの未来」3の「活用できる魅力資源」の中で、市民大学ちた塾がある。人数の多寡に関係なく、様々な市民活動が行われている中で、特定の団体名を取り上げない方が良いと思う。

[入江副会長]

先ほど、「ひとの未来」の中に「文化」がないというお話しがあったが、項目に入れるとするとどこが良いか。

[富田委員]

2か3になるのではないかと。

[入江副会長]

私の感想だが、まちの未来がこうなってほしいというのは分かるが、総合計画の策定意図として、こ

れから市民、企業、団体などが協働し合って、まちの未来を作っていくという理解をしている。そのような主体の関わりがみえにくい。行政だけで進めるものではないが、どのように協働していくかが読み取れない。

[市野委員]

「まちの未来」の6に「行政は組織がスリム化し、様々なまちづくりの主体とともに戦略的な行政経営を進めている」とあるが、「活用できる魅力資源」などの記載は空白である。

知多市は既にコミュニティ施策があり、コミュニティ組織が活発で先進的に取り組んでいる。担い手不足の中で、コミュニティ支援などについての記載も加えていただけると良いのではないかな。

[入江副会長]

コミュニティ活動を後押しするような内容を加えるということか。

[久野委員]

行政のスリム化とセットで入ると良い。

[市野委員]

知多市の軸となるのはコミュニティになってくると思うので、しっかりと計画に落とし込むことが必要ではないかな。

[入江副会長]

地域組織ということに関しての記述がないが、実際のまちづくりの主体は地域になる。どのように実効性をもって活動していただくか、書いた方が良いと思う。

[近藤委員]

「まちの未来」の5で、知多市には豊かな自然、緑、歴史、伝統があり、皆さんが享受され、魅力だとされているが、承継するという追認型になっている。せっかくある伝統、文化を磨き上げると良いのではないかな。緑も今のままでは気づかないところがたくさんある。そのまま知多市の魅力として良いのか。磨き上げをすることで、知多市の魅力を発展させ、例えば観光につなげるなど、チャレンジ性のようなものを次の10年の課題として書き込んでも良いのではないかなと思う。単純に今あるものを承認して、足りないものを補うというイメージの「めざす姿」になっているが、次の時代、新しいものを書き込んでも良いのではないかな。

[吉川委員]

私もその意見に賛成である。

伝統に関しても、まちづくりや人材育成に活かすという方向性がないと、寂れていくだけではないのかな。

[富田委員]

ため池は今、放置されている。そこに人の手を加えて、公園のようにするということも考えられるのではないか。

[入江副会長]

近藤委員の緑を磨き上げ、観光につなげるという発言は、観光だけでなくシティプロモーションにもつながってくる。

政策の「備え」と「攻め」の両軸が必要であり、人口減少が進む中で成長志向を捨てなければいけない。賢く縮んでいくことが必要で、「備える」ことになる。

一方、「攻め」の部分では、魅力の発信に努めなければならず、子育て世代をターゲットにする話しもあったが、選んでいただけるような地域になることにつながっていくと思う。

[吉川委員]

どういう街を作って子どもたちに何を残していくか、という視点が重要ではないか。ここにいる皆さんが、どこかで同じ視点を持って考えていかなければならないと思う。

[水内委員]

既に書かれてはいるが、人の未来を考えると「包摂性」がある。外国人が増加することを考えたときに、どれだけインクルーシビティが高いかが重要になる。「包摂性」はキーワードとしては入っているが、知多市としてももう少し攻めた書き方としても良いのではないか。

総合計画は10年の計画であるが、今の時代、10年先を見据えて決めるのは難しい。書き方はぼんやりならざるを得ないと思うが、途中のポイントポイントで振り返り、計画の見直し又は施策に変更を加えるなどの仕組みづくりができるとう良い。

[入江副会長]

計画の進捗管理については、10年先は分からないので、市民の声を基に、第三者の目線からこまめに修正して進めていくのがベストではないか。審議会の役割としてどこまで求められているかは分からないが、進捗管理についても審議会の最後の方で議論したいと考えている。

[久野委員]

今のお話のように時間軸は重要であると思う。基本計画から実施計画に落とし込むとき、「ひとの未来」、「まちの未来」で12個あるが、並列で良いのか。具体的な場面になると、相互に矛盾するところが出てくるのではないか。

包摂性は重要だと思うが、多様な人が暮らすことで、瞬間的には不安になったり、安心ではなくなったりする可能性がある。「ひとの未来」の1に「誰もが」とある一方「安全、安心」という言葉もある。その考えの対立が生じたときに何を優先するのかは、計画が実行段階に入るほど重要になるのではないか。

いつでも、「ひとの未来」「まちの未来」に戻って判断できるようにするには、重み付け、構造化が大

切になると思う。

[入江副会長]

時間軸のお話しの中で、短期・中期・長期の視点は絶対必要である。行政が計画を作る際も通常そのようにまとめる。基本構想、基本計画は10年間の内容になるが、基本計画は前期、後期の5年ごとのパターンになるものが多く、実施計画は3年ごとに作るものが多い。実施計画は3年間進めていく中で1年ごとに見直してローリングしていく。その中で時間軸を見極められるように、「ひとの未来」の中に示せると良いということではないか。

今の書き方は、12個が並列になっている。もしかすると、重み付け、優先順位付けの作業を行うことで、重要なキーワードが浮かび上がり、キャッチフレーズに集約していくのではないか。

[竹内（徳）委員]

「まちの未来」の2で「自然災害に強く治安の良いまち」とある。南海トラフ地震の発生と犯罪が少ない、治安が良いというものをどのように結びつけるのか。

根底にあるのは有事の際の地域力だと思う。自然災害に強いハードな部分のまちづくりもあるが、何かあった場合の地域のつながり、住民同士が安否確認できるような地域のつながりを高めるものがないと、安全、安心につながらないのではないか。

[入江副会長]

「活用できる魅力資源」の欄にそのような記載があっても良いのではないかと思う。

[竹内（徳）委員]

もう少し、そのウエイトを高めて、他の地域とは違う自慢できる地域にしたい。

[市野委員]

賛成であるが、さらに、知多市の昼夜間人口の差を考えると、大多数の大人が市外にいるときに市内に残っている高齢者、子どもの災害対策を考える必要がある。

[竹内（徳）委員]

空き家の問題が顕在化しつつあるが、多くの人にとってはあまり関心がないこととなってしまう。何か起こったとき、問題になるのではないか。

[水内委員]

「ひとの未来」の5で教育が取り上げられている。多世代間教育に重点が置かれているが、教育には多世代間教育以外の多くの側面がある。

例えば、犯罪の問題について言えば、外国人への理解が進まないので、ネガティブな面が生じる、外国人が支え合いの仕組みに入れないなどの問題がある。そういった教育の様々な側面についても、どこかで記載すると良いのではないか。

地域外とのつながりの中での教育ということもあり得る。

[入江副会長]

もう少し具体的に書き込んでいった方が良いということか。

[吉川委員]

不足しているからといって追記しすぎると過剰になるため、バランスが難しい。

[竹内（徳）委員]

具体的な施策になると、ある程度書いていないといけない。

[入江副会長]

書きすぎると、結果的に総花的な内容になってしまう。

【全体共有】

[吉村会長]

幾つか大事な視点が挙げられました。一つは、もう少し知多市ならではの長を打ち出した方が良いのでは、という提案です。子どもから高齢者まで、というのは実質的にはそうなのですが、それでは他市と同じになってしまう。子ども・子育てに大きくフォーカスしたメッセージはどうか、という提案がありました。

自然が豊か、コミュニティ、歴史・文化の面で子育て環境に適しているという部分を、「めざす姿」あるいは「まちづくりの基本的な考え方」の中で思い切って打ち出すのはどうでしょうか。人口が減っていく中で、街として適正な規模を維持していくためには、そういう世代も大事にする街だというメッセージを戦略的に考えていってはどうか、とのことでした。

併せて、教育の部分を打ち出す方法もあるのではないかと、という話もありました。片山委員から、東京での中学校の事例の紹介があり、知多市でどこまでできるかは別にして、自然の活用も含めた教育のユニークさを打ち出すことも提案されました。特色の出し方の議論はまだありますが、ただの学び合い、高め合いではなく、大人のリカレントを含めた記述を期待する意見もありました。

安心して暮らしている、共感、愛着や誇り、市民活動への関わりに、そうしたきっかけとなる場が大事だという意見もありました。場所があるからこそ、そのような人になっていけるという要素があるとすれば、めざす「まちの未来」の中に「愛着と誇りを育むような場所が散らばっているまち」という姿があっても良いのではないのでしょうか。例えば、就労支援などに利用されている耕作放棄地や環境学習の場、福祉的な場、学童などです。

また、先生の働き方についての問題提起があり、この問題に先生だけでなく、保護者、地域など、いろいろな事に関係してくることを考えれば、どのような形で地域の中で受け止められるのか、という話がありました。教育改革の問題でも、良い事例があればお互いにリソースを持ち寄って知多市で実施する、となれば良いと思っています。子育てを重点的な戦略と位置付けるとしたら、そうした施策を上手く組

み合わせられたら良いと思います。逆に、そうするためには、めざす未来の中のどこかに関連する記述が必要ではないかとも思いました。

また、松本委員からは、「歩いて暮らせるまち」「地域公共交通を使うまち」というものを打ち出すのはどうか、とのご提案がありました。子どもたちが、自分で行きたいところを、自分で決め、自分で選んだ手段で移動できることが重要で、親と共に自動車でしか移動できない現状は望ましくないのではないかとのことでした。ハードと「ひとの未来」がかなりリンクする事柄であり、よく考えていく必要があると思います。これが小学校区単位の話なのか、駅周辺の話なのか、というところは思想的な部分であり、後で皆さんにご意見を伺えればと思います。

[入江副会長]

「まちの未来」の1で「朝倉駅周辺整備」が出てくるが、それで良いか、というご意見がありました。前段で、街全体としてのまちづくり、コンパクトシティの議論があつてのことであれば分かるが、少なくとも本審議会では議論されていないのではないのではないかとのことでした。人の暮らしがどうなっていくか、という視点が必要であり、取りこぼされたように感じる地域も出てくるのではないかと、という意見もありました。駅周辺を核とするとしても、それ以外の地域をどうするか、というところでは、例えばコミュニティバスのあり方など、他の地域とのつながりなどが見える書きぶりがあると良いのではないかと、とのことでした。また、朝倉駅周辺整備が、「持続可能な整備とマネジメント」の項目の枠組みで良いのか、というご意見もありました。

「まちの未来」の4で「企業進出」「誘致」の文言がありますが、市内の既存中小企業への配慮として、「増やす」とすべきだという意見がありました。全体として企業の数を増やす、活性化する中で含まれる項目であれば良いのですが、「進出」「誘致」を特出しているのは、書きぶりとしてどうか、ということでした。

先ほど、「ひとの未来」の中に「文化」という言葉を入れた方が良いのではないかと、というご意見がありました。2か3に入れてはどうか、とのことでした。

また、地域活動のところと言うと、他にも多くのグループがある中で、ちた塾だけ固有名詞として出てくるのはどうなのかという意見もありました。

「まちの未来」の6に「様々なまちづくりの主体とともに」とありますが、コミュニティ活動が活発であることを踏まえれば、地域がまちづくりの主体となるようには見えないので、そういったことも書き込んでどうか、という意見もありました。

「まちの未来」の5「緑を承継する」のところ、「保たれ」という表現では追認型に見えるので、もっと磨き上げて魅力として発展させ、観光に活かすなど、施策の「備え」と「攻め」で言うと、「攻め」の書きぶりにしても良いのではないかと、との意見もありました。

審議会全体を通した視点としては、共通のもの、例えば子どもに関して言えば、子どもたちに何が残せるか、という視点があれば良い、という意見がありました。

また、10年もの先を正確に見通すのは難しいことから、折を見て進捗を振り返り、管理する仕組みが必要であり、できれば本審議会でも、どういった形で進捗管理していくかの大枠は議論した方が良いのでは、とのことでした。

「ひとの未来」「まちの未来」で出ている12個の項目は全て並列なのか、また時間軸が分からないと

いう意見がありました。場合によっては、対立し合ったり、上位下位も出てくることから、それぞれの重み付けや構造化も必要ではないかという意見もありました。

また、「まちの未来」の2「安心・安全なまち」の根底には、地域のつながりや力があることが書き込まれていない、とのことでした。さらに付け加えれば、知多市は昼夜間人口の差が激しく、昼間市内にいる高齢者や子どもの防災をどう考えるかも重要ではないか、というご指摘もありました。

「ひとの未来」の5、教育の部分は、多世代間教育が強調されているように読めますが、それ以外の部分でも教育を重視する書きぶりが良いのでは、という意見がありました。

[吉村会長]

ありがとうございました。残り時間は、両グループの話を聞いて感じたこと、ご意見を頂きたいと思えます。

【全体での意見交換】

[吉村会長]

多くの委員の皆さんと、大きな方向性は共有できていると思っていますが、書きぶりをどうしたら良いかは少し考えなくてはならないと思います。ただ、この場でこう、とは言いきないので、皆さんに意見を頂きながら進めたいと思っています。「子ども」については、両グループの現場に関わる委員から意見が出ているので、大事にすべきと考えます。

[富田委員]

子どもに視点を向けると、いろいろな所につながっていくと思います。先ほど、文化について発言したのですが、長久手市の取組で、「文化の期間」というものがあります。まちの人達が、給食中の子どもたちに音楽を披露するなどの取組が頭に浮かびました。そのような市民活動の拡げ方もあるのではないかと思います。

[片山委員]

長久手市はたいへん教育に力を入れており、子育て世帯がととも増えています。学校内での文化活動も、その一環でやっているのかもしれませんが。

個人的には、是非、「命」と「子どもの教育」を守っていただきたいと思っています。

[水内委員]

他の市町ではどう市民活動を活性化するかについての議論になる場面が多いと思いますが、知多市では既にあるという声が多く、それは大きな資源と言えます。市民活動の活発さという昔からの強みを新しく捉え直してさらなる強みに変え、市民参加型のまちづくりを行うことができる可能性を秘めていると感じました。

[松本委員]

「歩いて暮らせるまち」や「充実した公共交通機関」は、求められていると思います。高齢者が早めに

車での移動から公共交通機関に移っていただき、自分の足で歩き、健康でいられるまちづくりをしていただければ良いと思います。

また、課題解決の総合計画でなくてはならないと思っています。少子化という問題に対し、知多市として教育に力を入れて総合計画として全面に出していけば、いろいろな問題の解決につながると思います。それはどこの自治体でも出来るわけではなく、知多市だからこそできるのではないかと改めて感じます。交通の便も良く、市民活動が盛んで、自然も豊かで海もあり、企業もあり、若い世代も入ってきているので、ここに力を入れることができるのだと思います。課題解決の絵を描ける数少ない自治体の一つだと思いましたので、是非皆さんの力で実現していただきたいと思っています。今回の総合計画は市民が作る形なので、難しい課題も出てくるとは思いますが、せつかくこういった総合計画の作り方をしているので、その思いを実現するのが行政の役目だと思います。

[吉村会長]

これが問題だと言って終わるのではなく、具体的なアイデアとしてこうしたら良いのでは、と言っていることが重要だと思います。その実現に向けて、誰かに任せるのではなく、自分たちも、という部分を大事にしていきたいと思っています。

これまでの議論を総括すると、どこをよりフォーカスして知多市の特色を示していくのかということなのだろうと思います。例えば、名古屋から近いという立地や交通の便、自然が豊か、地域活動が盛ん、という強みを、どのような場面に束ねて活かすべきなのか考えたいと思います。そういったことからすると、子どもを大事にするということを、「めざす姿」の部分だけではなく「まちづくりの基本的な考え方」の中で書いても良いのではないかと思います。また、強みになっている部分を最大限に活かす、という積極的な書き方を「まちづくりの基本的な考え方」に入れても良いのではないかと思います。

「命」という言葉は大事だと思いますし、SDG s の考えは、子どもだけでなく高齢者や外国人、障がい者を含めて誰一人取り残さない、という非常にメッセージ性が高いものであり、「まちづくりの基本的な考え方」「めざす姿」の中で、出していければと思います。

今日頂いた皆さんからの全ての提案を入れ込んでも、おおよそ矛盾しないと思います。ただ、優先順位を決める段階では、皆さんと共に考えていく必要が出てくると思います。皆さんの思いが反映されるように事務局と共に考えていきたいと思っています。

[入江副会長]

全体の議論の中で、今後の道筋が見えてきたと思います。

子どもを社会全体でどう育てるか、子どもに何を残せるのかという視点で、委員の皆さんが共感したと思いますし、施策もかなり集約できるのではないかと思います。子どもを健やかに育てるために必要なこととして、教育や地域のつながり、防災、安全安心などがあり、また、緑を守る、育てる観点などからも、「子ども」というキーワードはかなりの部分の共通項になると思います。

さらに「命」を要素に含めると、より取りこぼし無くカバーできると思います。

[吉村会長]

ありがとうございました。これで完成というわけではなく、少なくとも、会長、副会長の中で確認しな

がら進めなくては、せっかくの皆さんの想いが活かされないこととなりますので、その点は注意深く気にかけていきたいと思えます。

本日は、いろいろな意見を頂き、ありがとうございました。まだ言い足りない部分もあるかと思えますので、別途事務局にお伝えいただき、出来る限りご意見を活かしたいと思えます。引き続きよろしくお願い致します。

事務局においては、本日の各委員からのご意見やご発言を踏まえ、基本構想などの構成を整理していただくようお願い致します。整理した修正案については、委員の皆さまに改めて送付し、フィードバックしながら、進めていきたいと思えます。

おおよその方向性は確認できていると思えますが、文章の書き方や言葉の使い方によってはきちんと伝わらない部分もあるかと思えますので、そこは気を付けながら進めたいと思えます。基本的には、会長と副会長にお任せいただけて進めるということによろしいでしょうか。

それでは、具体的な内容については、そのように進めていきたいと思えます。本日はありがとうございました。

[事務局]

ありがとうございました。活発な意見交換をしていただき、非常に重要なキーワードもたくさん頂きました。事務局としても、吉村会長、入江副会長と相談しながら、頂いたご意見をなるべく反映できるよう、基本構想の組立を進めてまいりたいと考えております。重点戦略についても多くのヒントを頂きましたので、皆様のご意見を活かせるよう考えていきたいと思えます。基本構想は、一旦整理をし、各委員に修正案をお送りさせていただきます。

次回審議会は、4月23日（火）午前10時からを予定しています。会場など詳細は、後日お知らせいたします。また、第6回以降の日程は、今月中に皆さんに照会させていただきます。31年度は、他に7月、9月、11月に開催を予定しています。各委員の皆さんと調整し、3月の上旬には日程をお伝えしたいと思っております。ご協力のほどお願いいたします。

[吉村会長]

以上で、予定の議事は終了いたしました。本日は、これもちまして審議会を閉会いたします。皆さま、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

以上